

「罪ゆるされて」

ヨハネによる福音書 8 章 1-11 節

イエスさまが神殿で人々に教えておられると、律法学者やファリサイ派の人々は、イエスさまの前に一人の女性を連れてきました。そしてこう言ったのです。「先生、この女は姦通をしているときに捕まりました。こういう女は石で打ち殺せと、モーセは律法の中で命じています。ところで、あなたはどうお考えになりますか」と。

彼らの魂胆は、イエスさまを告発することでした。ここでもし、イエスさまが、彼らの問いに対して「その女を赦してやりなさい」と答えたら、「モーセの律法を無視するのか、そんなやつはメシアではない」ということになります。かと言って、モーセの律法に従って「この女を石で打ち殺せ」と言われれば、それこそ彼らの思うつぼで、イエスさまを信じてついて来た民衆はイエスさまに失望して、イエスさまから離れていってしまうでしょう。しかも当時、ローマに支配されていたユダヤには、死刑を執行する権利は与えられていませんでした。ですからそれを無視して勝手に行使したということになれば、ローマに反逆したとみなされてもおかしくないのです。ですから、どちらに答えても不利になるという、イエスさまを窮地に追い込むための悪意に満ちた罠だったのです。

イエスさまは「あなたたちの中で罪を犯したことのない者が、まず、この女に石を投げなさい」と答えられました。これを聞いた者は、年長者から始めて、一人また一人と、立ち去って行きました。つまり、そこにいたすべての人が「自分は罪を犯したことがある」と認めたということです。「生まれてこのかた一度も罪を犯したことがない」、そんなことを言える人はこの世の中、誰もいないということは、誰もが思っていることでしょう。

しかし、この時のこの状況を考えてみた時、少し不自然な感じを覚えました。そもそも律法学者やファリサイ派の人々は、自分を正しいと思っていた人たちなのです。彼らは、胸を張って本気で「私は律法を完全に守ってきました」と言える人なのです。その点では、当時の律法学者やファリサイ派の人々と現代に生きる私たちでは罪への意識は異なっています。彼らにとって律法を守ることが正義であり、「罪を犯した」という言葉は、今日的な意味での個人の罪悪感や倫理観に訴える言葉ではなかったのです。

ところが、不思議にも彼らは去っていったのです。ある説教者は、それは「そこに主イエスがいたからだ」と言います。罪は暗闇では見えないし、目立つこともありません。ですが、光に当たると途端に見えてしまうものなのです。まことの光なるイエス・キリストの光に照らされるとき、私たちの普段は見えてなかった罪があらわにされるのです。

その結果、女性だけが一人残りました。イエスさまは言われました。「わたしもあなたを罪に定めない。行きなさい。これからは、もう罪を犯してはならない。」

イエスさまはこの女性に、「あなたに罪はない」と言われたわけではありません。この女性が罪を犯したことは明らかなのです。無かったことにはならないのです。しかも、その罪は死刑に値する罪です。しかし、イエスさまは「わたしもあなたを罪に定めない」と言われるのです。このイエスさまの言葉の裏には、「なぜなら、わたしがあなたに代わって裁きを引き受ける。私が十字架に架かる」という言葉がかかってきます。「いいよいいよ、赦し

てあげるよ」なんて軽い赦しではありません。罪は裁かれなければならないのです。イエス・キリストの十字架によって徹底的に罪が裁かれて、そして、その中から赦しの宣告がなされるのです。

これが私たちの人生においてどうしても必要なものです。私たちが本当に生かされるために必要なのは、このイエス・キリストの赦しの宣告です。聖書には、「罪から来る報酬は死である」と記されています。人は皆、罪のために裁かれ罰せられなければならない存在ですが、イエスさまは、そんな私たちひとりひとりの罪を背負って、私たちの代わりに十字架に架かって、いっさいの罰を受けてくださいました。だからこそ、イエスさまは、私たちに赦しを宣言することができるのです。私たちを罪に定めることのできる唯一の方が、私たちの罪を背負って自らを罪に定め、十字架についてくださったのです。イエス・キリストの赦しは、ご自分のいのちと引き替えにもたらされるものなのです。

最後にイエスさまは、こう言われました。「行きなさい。これからは、もう罪を犯してはならない」と。それは、今度罪を犯したら、「おまえを罰するぞ、刑務所に引き渡すぞ」ということではありません。そうではなく、「元の虚しい生活に戻ることはないように歩いて生きなさい」ということです。罪赦された者の生き方は、もはや、過去に縛られて生きる生き方ではありません。罪を赦してくださったイエスさまと共に前に向かって歩いて行くのです。もちろん、そこには困難があり、葛藤があり、罪の誘惑があります。いろいろなことが襲ってきます。でも、こんな私たちを愛し、赦してくださり、いつも共にいてくださるといふイエスさまの赦しの宣言が、私たちを生かしてくれるのです。